

## 夢、私たちに。

# わたしのひとこと



### 白馬の国際化

藤平 松沢 斉

白馬に戻ってきて早10年。本場オーストラリアでのライフセービングの経験が、このマウンテンビレッジで生きるとは思いもしなかった。知らない地で生きていくために文化や習慣を学び、地域に溶け込む中で多くのローカルに助けられた忘れられぬ感謝の思いを今、自らのふるさとで恩返しすることが仕事や地域活性に繋がっている。

青木湖を海パン一丁で泳いだり湖畔をグルグル走ったり、地元の魅力を逆に彼らに教わっている。2019年ラグビーWC、2020年東京五輪を機に白馬村には多くの外国人観光客が訪れグローバル化が更に進むことが想定される。

今こそ世界水準の観光地になるべく、スピードを上げて無電柱化やインターナショナルスクール設立に注力していきたい。白馬の子供たちの未来のために。



### 白馬の魅力とは

切久保 ベイコン綾子

大自然に囲まれた中、皆が温かく声を掛け子ども達がのびのびと育つ。この日本の原風景は村の財産です。また、代々白馬に住まわれている方や県外・海外からの移住者が多様に共存し、学校のクラスの1割はハーフの子など、国際化も顕著です。豊かな自然環境と国際的な生活環境との両立は全国でも稀で、“時代の最先端”を行く白馬村は次世代のリーダー達を育てているのかもしれない。

今後の課題と感じる事の一つは、未就学待機児童の解消。乳幼児がいても安心して働ける環境は、村の経済に活力を与え、移住者増加にも繋がります。

二点目に電線類の地中化。観光立村を目指すならば、まずは玄関口である白馬駅前での地中化実現が必須です。

山があり、水があり、そこに暮らす人々がいて文化がある。白馬の魅力をさらに国内外に発信し、選ばれる場所であり続けたいものです。



### あの日から二年

飯森 太田 祐輔

自宅前の飯森グラウンドに設置されていた仮設住宅が、3月から撤去されています。入居されていた皆様も、ようやく落ち着いた生活を取り戻されつつあると思いますが、二年半前のあの辛い出来事は、なかなか忘れる事ができません。

あの年、平成26年はいろいろな事がありました。夏のマイマイガ、秋の熊や猪の頻繁な出没、12月はじめからの大雪、そしてあの11月22日…。

当時、区長だった私も地区内を巡回した後、親戚のある堀之内地区へ駆けつけた時のあの只ならぬ光景は、今も脳裏から離れません。一夜明けた東部地区の震災痕は言うまでもありませんでした。役場からの要請を受け、飯森グラウンドの仮設住宅設置を決定し、年末までになんとか入居をしていただきました。

あれから二年が過ぎ、春の農作業が終わる頃、グラウンドは元の姿に戻っていることでしょう。でも、心に残るあの日はいつまでも忘れる事は、ありません。

## 編集後記

早いもので村議会議員の4年の任期が5月で終わりになります。

皆さまに分かりやすく、親しまれる議会報を目指してきたつもりですが、文字ばかりで読みにくかったり、横文字や行政用語が多く理解しにくかったりと、色々と反省しなければならぬ点があったことと思います。

この議会報が住民の皆さまとの架け橋であり、入り口であることを常に念頭に置き、今後も研修会で教わったことや、いただいたご意見を積極的に取り入れ、一人でも多くの方に手に取って頂ける紙面づくりができる議会活動、議会報委員会であればと思っております。

(伊藤まゆみ)

### 議会報調査編集特別委員会

- |      |         |
|------|---------|
| 議長   | 北澤 慎二 郎 |
| 委員長  | 伊藤 まゆみ  |
| 副委員長 | 松本 喜美人  |
| 委員   | 加藤 亮輔   |
| 委員   | 津滝 俊幸   |
| 委員   | 太田 正治   |
| 委員   | 太田 伸子   |
| 委員   | 篠崎 久美子  |